ニッポンの底力

町田宗鳳
比較文明学者

講談社+α新書
プラスアルファ

常州大学图书馆
藏书章

ニッポンの底力

講談社+α新書
プラスアルファ

町田宗鳳

1950年、京都市に生まれる。幼少期はキリスト教教会に通ったが、14歳で出家。以来20年間を京都の臨済宗大徳寺で修行。34歳のとき寺を離れ、渡米。ハーバード大学で神学修士号およびペンシルバニア大学で博士号を得る。プリンストン大学助教授、国立シンガポール大学准教授、東京外国語大学教授を経て、現在は広島大学大学院総合科学研究科教授、国際教養大学客員教授、広島大学環境平和学プロジェクト研究センター所長、オスロ国際平和研究所客員研究員、日本宗教学会評議員。研究分野は比較宗教学、比較文明論。

著書には『山の霊力』『法然の涙』『法然対明恵』(以上、講談社)、『人類は「宗教」に勝てるか』『法然・愚に還る喜び』(以上、NHKブックス)、『愚者の知恵』『なぜ宗教は平和を妨げるのか』(以上、講談社+α新書)などがある。全国各地で座談会「風の集い」および「健康断食」を開催している。

講談社+α新書 186-3 C

ニッポンの底力

町田宗鳳 ©Soho Machida 2011

2011年7月20日第1刷発行

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社 講談社
東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001
電話 出版部(03)5395-3532
販売部(03)5395-5817
業務部(03)5395-3615

カバー写真 ©Kouji Kusumoto/SEBUN PHOTO/amanaimages

本文写真 講談社資料センター、朝日新聞社、共同通信社

デザイン 鈴木成一デザイン室

カバー印刷 共同印刷株式会社

印刷 慶昌堂印刷株式会社

製本 牧製本印刷株式会社

定価はカバーに表示してあります。
落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。
送料は小社負担にてお取り替えします。
なお、この本の内容についてのお問い合わせは生活文化第三出版部あてにお願いいたします。
本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。
Printed in Japan
ISBN978-4-06-272724-2

目次◉ニッポンの底力

はじめに　3

第一章　復元力をもつ日本文化

「笑い」は日本人の底力　12
繰り返しやって来た天災人災　14
ヒロシマ・ナガサキ・フクシマ　17
発揮されるべき雑種民族の強み　22
「文化の祖型」で決まる国家の命運　26
「追放と復活」というモチーフ　30
なぜ、ヨットは沈まないのか　37

第二章　フクシマは文明の「折り返し点」

原発事故は偶然ではなかった　42
バブルの塔は崩れ始めていた　48
学ぶべき歴史のレッスン　53
小さな企業にも日が当たり始める　55
目前に迫る天然資源の争奪戦　59
「フクシマ・プロジェクト」　61
歴史が押し出すリーダーシップ　65

第三章　日本の進化に不可欠な首都移転

東京はすでに「沸点」に達している　72
日本史が語る首都移転の効果　75
「首都フクシマ」という選択肢　77
元気な地方が日本を救う　81
経済大国から文化大国への進化　83
エコノミークラスの旅もまた楽し　88
暗いほうが美しい　91
節約が寿命を延ばす　96
放射能にどう向き合うべきか　99
イエロー・フラワーで埋め尽くす　104

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

第四章　母系性社会と「女の力」

津波から生還した女性　110
恐るべし、女の底力　115
皇室という「文化の祖型」　119
女性が「産みの力」を発揮する　124
ほんとうの男女共同参画　128
「しなやかな文化」を取り戻そう　135
大切にすべき「曖昧の美学」　142
「建て前三分、本音七分」がコツ　148
仏界入りやすく、魔界入りがたし　151

第五章　アジア文明の夜明け

文明の陰に宗教あり　156
地上最大の宗教「アメリカ教」　160
覇権主義は中国文化の祖型　164
期待される儒教文化の復活　167
唯物史観から地球史観へ　172
日本人の中のアニミズム的世界観　177
仏教の本質は絶対平等観　182
アジアの手本となれ　188

「徳は、必ず隣あり」 190
被災された方々へ 195
あとがき 200
●主な参考文献 203

ニッポンの底力

講談社+α新書
プラスアルファ

●カバー写真：紀伊半島南部、
熊野川の上空に漂う雲海。

はじめに

二〇一一年三月一一日、日本列島が大揺れに揺れたあの日、東北地方には雪が舞っていましたが、夜になると何事もなかったかのように空が澄みわたり、無数の星がきらめいていました。まばゆいほどの星空を、津波に流され、いつまでも引かない海水の中で松の梢に摑まりながら見ていた人もいれば、瓦礫に埋もれながら、ヒューヒュー音を立てて走り抜ける寒風に全身を震わせて見上げていた人もいました。

もしも、この世に神様がおられるのだとしたら、言語に絶する苛酷な試練を人間に課した直後に、なぜそのような美しい星空を演出してみせたのでしょうか。

世界有数の漁場だった三陸沖で発生した大地震は、やがてモクモクと立ち昇る黒い煙のような津波を生み出し、その黒い波はあっという間に長閑な東北の町や村に襲いかかり、夥しい数の人間の命を奪い去っていきました。そして、人々が幾世代にもわたって営々と築き上げてきた財産を海の藻屑と化してしまったのです。

それだけでも大変な悲劇ですが、この地震が空前絶後の大惨事となってしまったのは、同じ黒

い波が、日本有数の規模を誇る原子力発電所に致命的なダメージを与えてしまったことです。

そして、とうとう、原発の専門家ですら想定することを拒んでいたレベル7という史上最悪の放射能流出事故が引き起こされたのです。

これ以後、「放射能汚染国」である日本から多くの外国人が去り、そして訪れなくなりました。日本を満席で飛び立った飛行機が、帰りは空席ばかりで舞い戻ってきます。

人間だけではなくて、そのうちお金の動きも止まるかもしれません。そうすれば債券安・円安・株安のトリプルパンチを受けて、日本経済は福島第一原発のように制御不能の事態に陥る恐れがあります。すでにたくさんの企業が、連鎖反応的にバタバタと倒産しはじめています。今日はまだ、美食に舌鼓を打っている人たちも、明日は空腹を抱えて路上をさまようことになるかもしれないのです。

日本はいま、経済的に綱渡り状態にあります。なのに、選挙のたびに「国民のために」と絶叫する政治家たちは、被災地から遠く離れた東京で「作業服を着る」ジェスチャーは見せたものの、相変わらず緋毛氈が敷かれた国会議事堂の中で、「お前が悪い」と罵声を浴びせあっています。

そして今晩もテレビは、相変わらず劣悪なお笑い番組を流しています。タレントたちの無節操な笑い声を聞いていると、紀元一世紀のイタリアで、ヴェスヴィオ山が大爆発した時、山麓のポンペイ市では人々が享楽に耽っていたという話を思い出してしまいます。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

しかも、火山爆発の三年前にポンペイが大地震に見舞われていることを思えば、東日本大震災後の日本も、富士山大爆発という次なる大災害に見舞われ、日本の心臓部が廃墟になるというシナリオだってありえるのです。

私は、本書を、いたずらに悲壮感を煽るために書こうとしているのではありません。

東日本大震災は、道に迷った旅人が、それ以上間違った方向に進まないように、凄まじい雷鳴と閃光を放ちながら、地上に落ちてきた稲妻のようなものです。国民がそれを謙虚に、そして素直に受け止めることができたなら、必ず日本は今までよりもはるかに住みやすく、楽しい国になると思っています。人と人との絆こそが「ニッポンの底力」です。この試練をみんなで乗り越えれば、その先に希望の光が差してきます。

冒頭に触れた美しい星空は、その予兆だったのかもしれません。

フクシマを「折り返し点」として、日本だけでなく、人類文明そのものが大きく方向転換をする可能性すらあります。

反対に、ここで判断を間違えれば、聖書に出てくるバベルの塔の話のように文明崩壊の危険性もありえます。そういう文明の「折り返し点」に真っ先に立たされた日本には、大きな使命があります。

大げさに聞こえるかもしれませんが、それが比較文明学者でもある私の確信なのです。

目次◉ニッポンの底力

はじめに　3

第一章　復元力をもつ日本文化

「笑い」は日本人の底力　12
繰り返しやって来た天災人災　14
ヒロシマ・ナガサキ・フクシマ　17
発揮されるべき雑種民族の強み　22
「文化の祖型」で決まる国家の命運　26
「追放と復活」というモチーフ　30
なぜ、ヨットは沈まないのか　37

第二章　フクシマは文明の「折り返し点」

原発事故は偶然ではなかった　42
バブルの塔は崩れ始めていた　48
学ぶべき歴史のレッスン　53
小さな企業にも日が当たり始める　55
目前に迫る天然資源の争奪戦　59
「フクシマ・プロジェクト」　61
歴史が押し出すリーダーシップ　65

第三章　日本の進化に不可欠な首都移転

東京はすでに「沸点」に達している　72
日本史が語る首都移転の効果　75
「首都フクシマ」という選択肢　77
元気な地方が日本を救う　81
経済大国から文化大国への進化　83
エコノミークラスの旅もまた楽し　88
暗いほうが美しい　91
節約が寿命を延ばす　96
放射能にどう向き合うべきか　99
イエロー・フラワーで埋め尽くす　104

第四章　母系性社会と「女の力」

津波から生還した女性　110
恐るべし、女の底力　115
皇室という「文化の祖型」　119
女性が「産みの力」を発揮する　124
ほんとうの男女共同参画　128
「しなやかな文化」を取り戻そう　135
大切にすべき「曖昧の美学」　142
「建て前三分、本音七分」がコツ　148
仏界入りやすく、魔界入りがたし　151

第五章　アジア文明の夜明け

文明の陰に宗教あり　156
地上最大の宗教「アメリカ教」　160
覇権主義は中国文化の祖型　164
期待される儒教文化の復活　167
唯物史観から地球史観へ　172
日本人の中のアニミズム的世界観　177
仏教の本質は絶対平等観　182
アジアの手本となれ　188

「徳は、必ず隣あり」 190
被災された方々へ 195
あとがき 200
●主な参考文献 203

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongb